一般質問者一覧表（第４回市議会定例会 令和３年12月１日、２日開議）

質問日	令和３年12月１日（水）		質問方式	分割方式		
質問順位	1	会派名 公明党	議席番号	20	氏名	幸田　惠里子

表　　題	質　問　内　容	答弁者の職名
1　社会的孤立防止対策について	社会的孤立は国を挙げての取組が急務となっており、本市としては支援が必要な人に事業を展開し、様々な委託機関を通して力を入れている。誰一人取り残さない社会の実現のためにも切れ目のない支援が必要である。そこで、社会的孤立防止対策について以下伺う。	
	(1) 出産前からの母親とのつながりの必要性も含め、母親の孤立を防ぐ支援について、現状と課題、今後の見通しについて伺う。	鈴木医療担当部長
	(2) 若者に対する支援事業として、若者相談支援窓口「わかば」において、若者と家族からの相談も含めて、相談内容に応じて専門的な相談機関に紹介をしているが、近年ＳＮＳを活用した相談業務を委託し、相談対応がされている。その現状と課題、今後の取組について伺う。	鈴木こども家庭部長
	(3) ひきこもりの人の支援として、「ひきこもり地域支援センター」が運営されている。社会との接点ができ就労につながるまでには、かなりの時間やサポートが必要になると思われるが、その相談件数と、どのような支援をされているのか現状と課題、今後の方向性を伺う。	鈴木医療担当部長
	(4) 社会との接点ができた後、就労につながり継続できるまでの支援が重要である。どのような支援がされているのか現状と課題、見解を伺う。	藤野産業部長
	(5) 生活困窮者自立支援事業として、「つながり」が委託で支援をしている。昨年の相談件数は2482件、コロナの影響で住宅確保給付金も本市全体で2583件になり、フードバンクは全体で363件の利用があった。困窮者支援の初めの窓口としても重要な事業となっている。そこで、以下伺う。 ア　窓口の周知はどのようにされているのか、またその課題について伺う。 イ　フードバンクの利用も増える中、緊急に助けを求める窓口が必要で、様々な支援機関につなげていくきっかけにもなることから、フードバンク事業の必要性は極めて大きい。そこで緊急性のあるフードバンク事業を本市ではどのように取り組んでいくのか見解を伺う。	山下健康福祉部長
	(6) 高齢者の最近の傾向として、独居の増加がある。また、子供と同居していても生活力がないため、課題を抱える人も増えている。そこで以下伺う。 ア　困っている人をどのように見つけて支援につなげているのか伺う。	山下健康福祉部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表　　題	質　問　内　容	答弁者の職名
	イ　地域包括支援センターでも、支援自体を拒否されることが増えていると聞くが、このような場合の対策及び実績を伺う。	
2　声なき声に応える体制について	なかなか声が出せないことで支援につながらないでいたことが、課題として認識され体制が整うことで少しでも進む力となっていくことが多々ある。そこで以下伺う。	
	(1) 今春、生理用品の入手が困難であったり、代用したりする「生理の貧困」が社会問題となった。本市では、本年５月に「はままつの「生理」を学ぶプロジェクト」が発足し、実態を把握するためのウェブアンケート調査を実施している。 また、アンケート調査だけでなく、生理用品の無償配布や生理に関するイベントも実施しているが、今後の取組について以下伺う。 ア　アンケート調査によって判明した結果と見解について伺う。 イ　今後の取組について伺う。	奥家市民部長
	(2) 外国人への日本語教育が重要と考えるが、本市に滞在している外国人にどのような支援をしているのか、以下伺う。	
	ア　外国籍児童・生徒の数が増加傾向にあり、本年５月１日の調査では過去最高となっている。多国籍化により多言語対応も求められており、今後、外国人児童・生徒等がさらに増えた場合、バイリンガル支援者が不足する場合も予想される。日本語の分からない外国人児童・生徒等に対し、どのような支援をしているのか、現状と今後の対応を伺う。	花井教育長
	イ　2019年６月に日本語教育の推進に関する法律が施行され、外国人市民が日常生活及び社会生活を円滑に営むことができるよう、日本語を習得できる環境づくりがこれまで以上に求められている。出身国や母国語、年齢、在留資格、滞在目的等の多様化が進み、外国人市民の望む日本語教育のニーズも多様化する中、本市における外国人学校に通う生徒、留学生、企業に勤めている労働者への日本語学習支援の現状と課題、今後の方向性を伺う。	石坂企画調整部長
3　さらなる支援体制の強化について	現行の福祉事業のさらなる体制の強化によって、市民に寄り添うニーズに応えられる福祉の向上につながると考えるが、以下伺う。 (1) 成年後見制度利用促進への体制の取組について、進捗状況と課題、今後の方向性について伺う。 ア　浜松市社会福祉協議会が中核機関として２名体制で相談業務をしているが、その実績と課題を伺う。ま	山下健康福祉部長

表　　題	質　問　内　容	答弁者の職名
	た、法人団体との連携はどのようになっているのか、現状と今後の方向性を伺う。 イ　市民後見人の育成とその後の活用や、家庭裁判所の受任までのサポート体制を伺う。 (2) 複合的な課題を解決していくための、横の連携を図る対策や仕組みづくりについてどのように考えているのか伺う。 (3) 多岐にわたる様々な相談はコミュニティ・ソーシャル・ワーカー（ＣＳＷ）が担っている中、人材も限られていることもあり、対応に追われていることで、満足にノウハウをつける時間と余裕のない状況と伺っている。そこで、ＣＳＷの実人数と相談件数、人材育成への取組と今後の方向性を伺う。	
4　市民協働で生かす環境整備について	広大な本市は、行政だけでは維持管理ができないのが環境整備である。特に除草や道路の保全、緑豊かな環境が行き届くには、継続した維持管理が必要である。そこに官民で支え合う仕組みがあることで、安全や安心が保たれ、市民との共生につながる。そこで以下伺う。	
	(1) 市民の満足度向上につながる要素の一つとして、安全に走行するための道路保全が重要な中、市民が「いっちゃお！」で危険個所を自ら発信し、それにすぐに対応することで、安全が保たれ本市への信頼度の向上につながる。 そこで、各土木整備事務所別の「いっちゃお！」の通報数と、修繕した対応件数、また通報から修繕までより迅速に対応するため、現行システムの改善等の取組について伺う。	髙須土木部長
	(2) 緑豊かな町並みはとても心を和ませてくれる。特に駅や市役所周辺、中心街はそのまちの玄関口であり、整備された花と緑が豊かであることは、そこに住む市民の心の表れとなる。そこで、「緑の基本計画」には本市の目指す姿が示されているが、中心市街地をどのような視点で計画をしているのか、また大河ドラマに向け、花と緑のまちとして、駅前からの花壇等の対応を伺う。	奥井花みどり担当部長
	(3) 子供たちや孫を連れて、公園で遊ぶ機会が多いと気になるのがトイレや遊具が設置され、雑草のないきれいな公園であるかどうかである。特に身近にある小さな公園は憩いの場となっており、そこの管理や草刈りは、自治会などの愛護会によって実施されていると聞いているが、その現状と課題を伺う。また、愛護会が継続して維持していくことができるようにするための取組も伺う。	〃
	(4) 2023年に大河ドラマ「どうする家康」が放映されると、観光客もＪＲ浜松駅を降車し、浜松城を目指して歩いて散策することとなるが、駅周辺や中心市街地のおもてなしをどのように考えているのか伺う。	鈴木観光・ブランド振興担当部長